

いいかも

(在宅型取組100%達成の可茂)

可茂県事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 鈴木淳司
〒505-8508
美濃加茂市古井町下古井 2610-1
TEL: 0574-25-3111 内線 208
FAX: 0574-25-3934

可児市方式の子育てまなび講座(第2回・第3回)

可児市では子育て中の保護者、子育て支援に携わっている方・関心がある方を対象とし、「子育てまなび講座」を合同で開催してみえます。

昨年度の可茂地区家庭教育学級リーダー研修会の分散会では「合同開催とは、とてもいい方法ですね」と話題になって、可児市ならではの方法に関心を持たれた家庭教育学級長さんも多くみえました。今年度も「情報モラル、いじめ防止、発達障がい、性教育、子どもの心理」のテーマに沿って、年間6回の計画を立ててみえ、2・3回目に参加しました。その具体的方法とは、

- ① 市の子育て支援課が年間6回の講座計画を作成し、受講生を募集する。
- ② 各家庭教育学級長は、学級生のニーズをとらえて、各講座にエントリーする。
- ③ “この指とまれ”で、1つの講座に複数の家庭教育学級が集い、みんなで合同聴講する。

このことにより、次のようなよさも生まれることと思います。

- ・ 講師選択・派遣申請・謝金支払い・資料作成・会場確保・設営など事務の簡略化ができる。
- ・ 講話内容は育児に関する喫緊の課題の共有化や学級生相互の関係性の質的な高まりが期待できる。

講演会型

学校・園名	土田小・蘇南中・西可児中	西可児中・瀬田幼稚園
実施日時	9月18日(金)	10月6日(火)
会場	可児市福祉センター 大ホール	
参加人数	50名	50名
学習課題	□『0歳から思春期を超えるまでの「いじめ問題」への対応』	◇『発達障がいの理解と具体的な支援や対応』
運営者の願い	いじめ防止や発達障がいへの理解に向けて、家庭でできることや親としてどんなことをしていくとよいかを学ぶ機会にしたい。	
講話の骨子と感想		
<p><講師> 可児市いじめ防止専門委員会委員長 橋本治 先生</p> <p>□今の子ども達の発達と発達上の課題、「いじめと自殺」の4つの波、岐阜市いじめ問題対策委員会からの報告などの話がありました。</p> <p><学級生の声></p> <p>□子どもの話に耳を傾け、親子のコミュニケーションや関わりを大切にしていきたい。</p> <p>□子どもがいじめに関わることもあっても、一人で悩まず打ち明けてくれるような関係性を築いていきたい。</p>	<p><講師> 可茂特別支援学校 西尾誠先生・前田時和先生</p> <p>◇冒頭に「家庭はお子さんの心の居場所であってほしい」と述べられて、講座の事前アンケートをもとに、質問に丁寧に答えていかれました。</p> <p><学級生の声></p> <p>◇発達障がいは個性の延長という言葉に少し心が軽くなりました。</p> <p>◇できない事を無理に頑張らせるのではなく、できる事・得意な事をさらに伸ばしていけるような声かけ、関わり方が大切だと知りました。</p>	



・密を避けるため、定員 700 名の会場で入場者数は 100 名までに制限されました。

受付窓口も3か所設置したり、マスク、検温、指定席制にしたりして、感染防止対策を実施して開催されました。



□「最近こんな状況は見られませんか？」といじめを見抜く具体的なポイントが示されました。

◇事前アンケートから10の質問項目に絞り、参加者のニーズに対応した講話となりました。

『子育て時代が人生の華だよ』

(絵手紙作品展 あったか賞「成人の部」)

新聞報道などですでにご存じの方もみえるかと思いますが、御嵩町では「第18回 愛の絵手紙&一行詩展」が10月9日まで開催されました。平成15年から始まったこの事業は、今年はコロナ禍での実施となりましたが、愛があふれる作品は教育委員会フロアいっぱいすべて展示されています。

平成14年に学校週5日制がスタートした時、子ども達には家庭や地域の場で様々な体験活動に取り組んでほしいという願いから、一家庭一実践の取り組みがスタートしたと聞いています。高木教育長さんは、笑顔いっぱい、「日本一子どもが幸せな町」をかけた、「群れて育てる」家庭教育学級を目指してみえます。



あったか賞
「成人の部」より

在宅型・家族の大切さ

事業名	愛の絵手紙&一行詩展
実施日時	9月18日(金)~10月9日(金)
会場	御嵩町役場 北庁舎2階
応募点数	1085点
運営者の願い	愛があふれるすべての作品を展示します。はがき1枚1枚に込められたわが子への思い、成長の喜び、大切な人への感謝の気持ちなど、心温まる作品をじっくりとご覧いただきたい。

事業の紹介

左のような開催の案内を作成し、右のように各賞受賞作品も掲示されています。



•絵手紙の内容を拝見するとコロナ禍にも決してめげないで、親子のほのほのとした心の交流が感じられます。

また、幼児から祖父母世代まであらゆる年代の方々が参加してみえます。



- 本事業は家庭教育学級を核として中期的に継続されていて、確かな取り組みとして町内に定着しています。
- 昨年度は2148点もの応募があり、全世帯の約三分の一にあたる家庭がなんらかの形で関わってみえることとなります。

コロナ禍ならではの『家族で防災会議』

今年度の美濃加茂市防災訓練は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、一次訓練及び二次訓練による参集型訓練を取りやめ、自宅などで自主的に行える新しい形の防災訓練が実施されました。

私たちは一日 24 時間の内、1 / 3は社会経済活動など自宅外で活動し、1 / 3は自宅などで過ごし、残りの 1 / 3は睡眠の時間になります。また、地震災害が発生した際のケガの原因の約5割は家具などの転倒・落下・移動によるものとも言われています。

【<http://www.city.minokamo.gifu.jp/temp2/hp/6/20201006160857/家族で防災会議.pdf>】

右の広報では自宅での取り組みを、以下のように説明してあります。

- | | | |
|--------|-----------|------------------|
| STEP 1 | 自宅の安全を確認 | Q.自宅の防災対策は？ |
| STEP 2 | 備蓄品の現状把握 | Q.家に備えているものは？ |
| STEP 3 | 周辺環境の確認 | Q.自宅周辺の危険な場所は？ |
| STEP 4 | 避難場所の確認 | Q.どこに避難できますか？ |
| STEP 5 | 行動内容を確認 | Q.誰とどうやって避難しますか？ |
| STEP 6 | 情報収集方法の確認 | Q.災害時の情報の集め方は？ |



在宅型・命の大切さ

事業名	令和2年度美濃加茂市防災訓練『家族で防災会議』
実施日時	10月25日(日) 9:00~
会場	市内各家庭
広報資料	家族で防災チェックシート・災害伝言ダイヤル『171』
運営者の願い	大切な命を守るために、家族で防災訓練・家族会議に取り組んでいただき、家庭の防災力を向上させたい。

事業の概要

- 事前準備『すぐメールみのかも』に登録
 - 防災行政無線の内容、緊急災害情報、気象情報、イベント情報など、暮らしに直接結びつく情報を携帯電話等でメール受信する。
- 9:00~ 防災行政無線による緊急地震速報
 - 放送を聞いたらすぐに3つの安全行動(低く、頭・体の保護、動かない)をとる。
- 9:10~ 家族で防災会議
 - 日頃の備えや災害時の行動を家族で話し合う。完成したものはコピーして、家族全員で保管しておく。
- “FMらら”で防災会議を生放送
 - 美濃加茂市防災安全課職員も出演し、災害対策のポイントをラジオ放送により伝える。
- ＜当日参加者の声より＞
 - 避難訓練はいつも学校ではやっているけれど、今日はお母さんや妹と一緒に訓練をしました。(子)
 - 保育園では、毎月1回訓練をしているようで、家庭内でスムーズにシェイクアウト訓練ができました。(親)



・コロナ禍で、人が密集することを避けるため、新しい試みとして、家庭内での防災について取り組まれました。家庭で主体的に受け止め、現状を見つめなおす機会となっています。

家庭でシェイクアウト訓練



・命を守るための外部からの情報収集方法など、防災情報を家族間で共有するためにも「在宅型」の家族会議はとても意義深いものがあります。

「シートベルトをしないと車を出発させません」

岐阜県内の小学生の関係する交通事故の約半数は自動車同乗中に発生していますが、「シートベルト着用状況全国調査」(R1,10調査)によると、岐阜県の一般道における後部座席同乗者のシートベルトの着用率は53.3%で、依然として低い状況にあります。

このため、県内小学校において、シートベルト着用効果体験車を活用した参加・体験・実践型の交通安全教育が実施されています。今回は下記のように管内の3つの学校を訪問しました。

会の冒頭で、県職員から「いつも、シートベルトをしている人？」と問いかけると、自信を持って堂々と手を挙げられない児童がいましたが、この授業により、会の終末には、「いつも、シートベルトをします。」と力強い決意がみられ、事後アンケートの結果が楽しみになりました。交通事故の犠牲者を出さないためには、家庭における取り組みが一番肝要です。可茂地区は、シートベルト未着用ゼロを目指していきましょう。

事業名	令和2年度 スクールセーフティー事業
実施日時	10月16日(金)・10月22日(木)・10月28日(水)
会場	八百津町立潮見小学校・川辺町立川辺東小学校・美濃加茂市立下米田小学校
講師	(一社)日本自動車連盟 岐阜支部指導員、加茂警察署員、岐阜県職員
運営者の願い	児童にシートベルト着用の重要性を学んでもらうとともに、 <u>児童を通じて家庭内の意識向上を図ることを目的としています。</u>
事業の概要	
1. 県職員からの話 ・事業概要・授業内容・流れの説明	
2. JAF 岐阜支部より ・衝突実験映像のDVD視聴 ・シートベルトに関する講話「鎖骨・胸骨・腰骨を意識して締めよう」	
3. シートベルトコンビンサー体験(⇒)	
4. 加茂警察署 交通課 A係長の話 ・交通安全に関する講話では、おまわりさんの家庭教育として、下記のような趣旨の話をしてくださいました。	
<p>私も家では中学1年と小学5年、1年の子どものお父さんです。我が家では3人ともがシートベルトをしないと車を動かさないきまりだったので、実際にシートベルトをするまで出発しなかったこともありました。だから、今ではシートベルトをすることは当たり前になっています。皆さんも今日からはシートベルトは当たり前にしてください。また、シートベルトをしていない人がいたら注意してあげてください。この2つをおまわりさんと約束してくださいね。</p>	
在宅型・命の大切さ	
5. 体験に関するアンケート調査 ・児童・保護者・教員対象 <参加児童の声> ・体験車が急に前に行ったりしてびっくりしました。 ・ぶつかって止まった時に、心臓が止まるかと思った。 ・保育園の時、怖い体験をしたことがあるので、いつも車に乗る時はシートベルトをしています。	

※家庭教育学級には、講演会型や体験参加型、子育てサロン型、在宅型取り組み型などいろいろな学習形態がありますが、詳しくは家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」(県HPよりダウンロード可)のP4~5をご覧ください。